

# Waseda Vision 150と学生参画

Waseda Vision 150は、2032年に創立150周年を迎えるそのころの早稲田大学をつくる中長期計画です。早稲田大学は20年前から国際化・情報化に取り組んできました。Waseda Vision 150はそれを一段と加速させ、「アジアのリーディングユニバーシティ」として世界へ貢献する大学であり続けることを目指し、グローバル人材の育成に取り組んでいます。

そのために4つのビジョンを掲げ、13の核心戦略を策定し、それらを実現するために今、75のプロジェクトが動いています。Waseda Vision 150がこれまでの改革と違うところは、これまでの改革は教職員を中心に進めてきましたが、今回は学生の皆さんの積極的な参画を求めているところです。

早稲田大学は、学生を単に教育を享受するだけの存在とは考えていません。核心戦略として「グローバルリーダー育成のための教育体系の再構築」「教育と学修内容の公開」「対話型、問題発見・解決型教育への移行」といった、新たな教育への挑戦をうたっています。これを理想論に終わらせないためには、教育改革の成果を享受する学生の皆さんの声や提案を取り入れる仕組みをどうつくれるかが鍵となると考えています。

皆さんは、授業を通じて、あるいは課外活動を通じて身に付けた知識や経験を豊富に持っています。皆さんの持つ能力・専門性をWaseda Vision 150で発揮してほしいと期

待しています。核心戦略「大学の教育・研究への積極的な学生参画の推進」は、そうした思いを込めて策定されました。

今現在も多くの学生が、大学の教育・研究にTA・RAとして、また運営に学生スタッフとして携わっています。こうした業務をスチューデント・ジョブと位置付け、さらに学生の声や提案を取り入れて、学生参画の輪を広げていくために「学生参画・ジョブセンター」を開設します。

2014年度の学生生活調査においては、Waseda Vision 150に関連する設問を用意しました。第4章に、Waseda Vision 150の認識度に関する設問、スチューデント・ジョブへの応募に関する設問を、第6章に、課外活動などの場の充実に資するために、自習室やグループ学習室に関する設問を設けました。これらのデータは今後の運営を考えていく際に必須となります。また第6章では、早大生の早稲田大学に対する誇りについても問い掛けを行っています。さらに第7章から第10章にかけて、2013年3月に実施した早大生の生活実態調査を踏まえた、経済状況、アルバイト状況、住まい、生活サイクルなどの新規項目を取り入れています。

この学生生活調査報告書を読み進めていくことで、Waseda Vision 150についての理解を深める契機となればと思っています。

## 学生参画・ジョブセンターについて

学生参画・ジョブセンター(SJC)は、大学の教育・研究、さらに運営などへの学生参画を推進する組織と位置付けています。学生部学生生活課内に開設します。

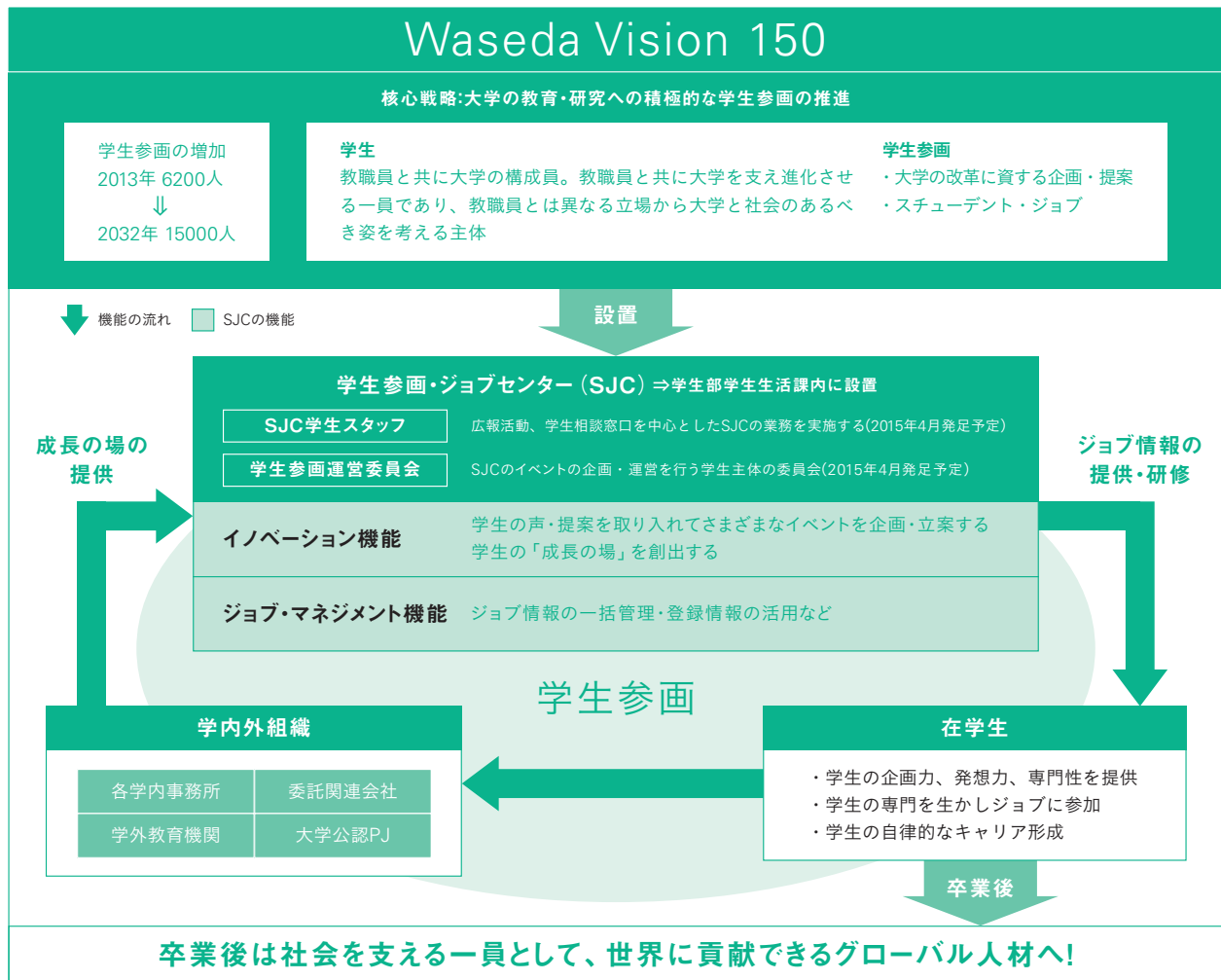
Waseda Vision 150 Student Competitionにおいて、多くの学生チームから、大学の改革に資する提案が寄せられました。こうした事例が学生参画の一つの形です。もう一つの形が、前述した、皆さんの持つ能力や専門性を生かすことのできるスチューデント・ジョブです。スチューデント

・ジョブは、学内でできる就労体験として、自律的なキャリア形成の機会となるでしょう。

SJCは、学生スタッフが主体となって運営することを予定しています。学生参画運営委員会を設置し、学生参画の企画を立案・実施します。同委員会は教職員と共に大学をつくっていく学生主体の会議体です。委員として、ICC学生スタッフリーダー、キャンパスツアーガイドなどの学生スタッフからの代表を予定しています。

## 学生参画・ジョブセンター (SJC) のイメージ図

学生参画・ジョブセンターの目的や機能、学内外とのつながりや学生への効果を図にまとめました。



## 早大生の生活モデル (学部学生)

早大生の24.9%が一人暮らしをしています。授業期間中の平均的な1カ月の暮らし方を見てみると、収入面では、5万円以上6万円未満を仕送りしてもらっている学生が多くを占めています。仕送り・小遣いが0円という回答が自宅生30.6%、自宅外生10.9%、留学生12.8%いて、厳しい生活状況がうかがえます。約4人に3人がアルバイトをしていて、アルバイト先は96.1%が学外、週10時間未満、昼間・夜間の時間帯に働き、3万円以上4万円未満の収入を得ています。奨学金を受けている学生は27.2%、その種類は学内奨学金5.6%、日本学生支援機構第一種・第二種合わせて19.1%、平均受給額は約49,000円でした。留学生は学内奨学金、民間団体奨学金などを受給している割合が高くなっています。

次に支出面を見てみると、学費は、89.2%の学生が保

証人によって負担されています。家賃・共益費は6万円以上7万円未満が多いですが、56.0%は保証人が直接支払っています。学生自身が支出している勉強維持費は1万円未満という回答が全体では69.3%を占める一方、留学生は35.9%に留まっていることから、留学生の方がより多くの金額を勉強に費やしている傾向がうかがえます。学費、家賃・共益費を除くその他(食費、光熱水費、生活必需品費、通信費、交通費、サークル・部活動費、趣味遊興費など)の費用合計は、自宅生2万円以上3万円未満26.2%、自宅外生3万円以上4万円未満21.3%、留学生2万円以上3万円未満22.6%となっており、それぞれの暮らしぶりを反映していると思います。留学生は学費、家賃・共益費を自分で、あるいは一部を自分で負担している割合が高く、一般学生に比べて、経済的な自立度が高いといえるでしょう。